

令和4年度 第2回 半田市地域福祉計画推進委員会

日 時：令和5年2月2日（木）

10：00～

会 場：市役所大会議室（4F）

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事

(1) 令和5年度事業予定について … 資料1

(2) ふくし課題プロジェクトについて … 資料2

(3) 第2次地域福祉計画の中間見直しについて … 資料3

4. 事務連絡

5. 閉会

<令和5年度の委員会開催日程（予定）>

第1回 日時：令和5年 6月 6日（火）10時～ 会場：市役所大会議室

第2回 日時：令和5年10月13日（金）10時～ 会場：市役所大会議室

第3回 日時：令和6年 2月 6日（火）10時～ 会場：市役所大会議室

半田市地域福祉計画推進委員会名簿

区分	氏名	所属(役職)
1 地域住民 (3名)	ミソグチ アキヒロ 溝口 昭弘	地区代表者(亀崎)
	オグリ テルオ 小栗 照夫	地区代表者(乙川)
	ヤマダ タカシ 山田 嵩	地区代表者(青山)
4 社会福祉事業者 (3名)	モリカワ タケヒコ 森川 武彦	社会福祉法人権の木福祉会
	タテイシ ヨシキ 立石 佳輝	社会福祉法人ダブルエッチジー
	ワシノ リンペイ 鷺野 林平	社会福祉法人半田同胞園
7 社会福祉活動者 (3名)	イマイ トモノ 今井 友乃	NPO法人知多地域権利擁護支援センター
	シモムラ ヒロコ 下村 裕子	NPO法人りんりん
	シバタ マサト 柴田 将人	愛知県弁護士会(半田市ふくし"まるごと"会議)
10 事務局(市) (4名)	タケベ マスヨ 竹部 益世	福祉部長
	スギエ シンジ 杉江 慎二	地域福祉課長
	ナイトウ マコト 内藤 誠	地域福祉課
	ヨシザワ ノブ ヒロ 吉澤 伸博	地域福祉課
14 関係課(市) (4名)	ハセガワ ノブカズ 長谷川 信和	生活援護課長
	サワダ ヨシユキ 沢田 義行	高齢介護課長
	ヌマタ マサアキ 沼田 昌明	健康課長
	ミヅ ショウタロウ 三輪 象太郎	子育て相談課長
18 事務局(社協) (3名)	オノダ ヤスシ 小野田 靖	半田市社会福祉協議会 事務局長
	マエヤマ ケンイチ 前山 憲一	半田市社会福祉協議会 事務局次長
	ナカネ ヤスユキ 中根 靖幸	半田市社会福祉協議会

令和 5 年度事業予定について

第 2 次半田市地域福祉計画に係る令和 5 年度の事業予定について、以下のとおり報告します。

第 2 次半田市地域福祉計画の基本目標

基本目標 1 ささえあいの地域づくり

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくことができるよう、地域の福祉活動基盤の運営継続と発展を支援し、ささえあいの地域づくりを目指します。

基本目標 2 包括的・重層的・伴走的な相談支援

あらゆる福祉分野の相談支援の充実を図るとともに、相談支援機関の連携を深め、複雑・多様な課題や不安を抱える方を早期に発見、包括的・重層的・伴走的に支援する体制の整備を目指します。

基本目標 3 ふくし人財の確保・育成

地域のささえあいから社会福祉事業まで、全ての福祉活動は人の力により成り立っており、その意味で福祉活動従事者は大切な「資産」と言うことができます。広く福祉活動従事者を「ふくし人財」として捉え、その確保・育成を目指します。

基本目標 4 課題解決の仕組みづくり

社会情勢の変化等により生じる新たな課題等について、関係機関と連携・協力して解決の仕組みづくりを目指します。

基本目標 1 ささえあいの地域づくり					
評価指標	項目	3年度	4年度見込	5年度見込	
		「ふくし井戸端会議」参加者数	420人	200人	500人
		「災害時避難行動要支援者名簿」を活用した防災訓練実施件数	0件	2件	2件
推進施策と主な取組	<p><u>推進施策（1）地域福祉活動基盤の発展推進</u></p> <p>■主な取組■</p> <p>①地域福祉課題の共有と解決に向けた協議の場づくり</p> <p>②地域の住民交流拠点・助け合い活動の発展推進</p> <p>③民生・児童委員、保護司等の活動推進</p> <p><u>推進施策（2）防災・減災の推進</u></p> <p>■主な取組■</p> <p>①災害時避難行動要支援者支援制度の充実</p> <p>②福祉避難所等の整備推進</p>				
	現状と課題（主なもの）	<p><u>推進施策（1）について</u></p> <p>・地域課題について協議等する「ふくし井戸端会議」は、介護保険サービスの勉強会や地域住民・福祉事業所・大学生が地域の抱える課題に対して若い世代の協力を得るためにはどうすればよいかなどの話し合いを行いました。今後も地域福祉活動を進めていく必要があります。（ふくし井戸端会議のダイジェストは別紙参照）</p> <p><u>推進施策（2）について</u></p> <p>・総合防災訓練と同日に開催した地域の防災訓練で、災害時避難行動要支援者名簿を活用した避難訓練を実施しました。</p> <p>・また、福祉避難所については、「半田市福祉避難所開設・運営等実施要領」に基づき、福祉避難所の開設・運営訓練を実施しました。</p>			
R5年度の予定（主なもの）	<p><u>推進施策（1）について</u></p> <p>・「ふくし井戸端会議」については、市や社協の職員が地域ふれあい施設や地域サロン等に出向き、利用者・参加者と少人数で話し合いを重ねることや、勉強会を開催します。</p> <p><u>推進施策（2）について</u></p> <p>・災害時避難行動要支援者の個別避難計画は対象者自身や家族・支援者等で作成し、令和7年度末までに市内対象者全員分を作成するよう努めます。作成できない方は個別で対応を検討します。</p> <p>・避難行動要支援者名簿を活用した防災訓練の実施について、自治区等への働きかけを進めます。</p>				

基本目標 2		包括的・重層的・伴走的な相談支援			
評価指標	項目	3年度	4年度見込	5年度見込	
		「にじいろサポーター養成講座」受講者数 (延べ人数)	312人	330人	350人
		「くらし相談室」自立支援件数	605件	401件	400件
推進施策と主な取組	<p><u>推進施策（1）</u> ふくし相談窓口等の拡充</p> <p>■ 主な取組 ■</p> <p>①地域の身近な「ふくし相談窓口」等の拡充</p> <p><u>推進施策（2）</u> 相談支援機関の連携強化等</p> <p>■ 主な取組 ■</p> <p>①相談支援機関の連携強化</p> <p>②就労・住まい・移動等に関する支援の充実</p> <p><u>推進施策（3）</u> 生活困窮者等自立支援の充実</p> <p>■ 主な取組 ■</p> <p>①自立相談支援等の充実</p> <p>②自殺・ひきこもり・虐待・累犯・支援拒否等困難ケースの対応充実</p>				
	現状と課題（主なもの）	<p><u>推進施策（1）</u> について</p> <p>・社協が中心となり、市内福祉事業所等の連携体制を構築し、事業所等による「ふくし相談窓口」の設置を進めています。</p> <p><u>推進施策（2）</u> について</p> <p>・社協に配置した CSW を中心に、子ども・高齢・障がい・困窮世帯やどの制度にも当てはまらない制度の狭間の方々に対しての支援や、複合化・複雑化した課題の解決に向けて取り組んでいます。</p> <p>・不登校や問題のある児童・生徒を紐解くとその家族に問題があることが多くあり、学校やスクールソーシャルワーカー等と連携して課題解決を行うとともに、伴走支援を行う必要がある世帯が増えています。</p> <p><u>推進施策（3）</u> について</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、減収や離職等に関する相談が高止まりしています。また、障がいや高齢（介護）、刑余を理由に経済的困窮に陥っている世帯も少なくなく、相談者が抱える課題が複合化し、直ぐに解決に至らないケースが増加しています。年々、ひきこもりケースを中心に、前年度からの継続支援件数が“雪だるま式”に増えており、“量”への対応に留まらず、課題解決に向けた“質”の更なる向上を図っていく必要があります。</p>			

推進施策(1)について

・引き続き、「にじいろサポーター」の養成や、市内福祉事業所等による「ふくし相談窓口」の設置拡充を進めます。

推進施策(2)について

・相談支援機関との連携や複雑・多様な課題を抱える方へのアウトリーチ支援などを行います。また、参加支援・地域づくりに向けた支援も行います。

推進施策(3)について

・各種支援策を活用するとともに関係機関と連携するなかで、引き続き、生活困窮者の就労、社会参加、家計、住まい等の支援に努めます。

基本目標 3 ふくし人財の確保・育成				
評価指標	項目	3年度	4年度見込	5年度見込
		小・中・高等(専門)学校(全26校)における「ふくし共育」開催校数	17校	18校
推進施策と主な取組	<p><u>推進施策(1) 地域福祉の担い手育成</u></p> <p>■主な取組■</p> <p>①ふくし理解の促進</p> <p>②地域福祉の担い手育成</p> <p><u>推進施策(2) 介護人材等の確保支援</u></p> <p>■主な取組■</p> <p>①介護人材等の確保支援</p>			
	現状と課題(主なもの)	<p><u>推進施策(1) について</u></p> <p>・全ての人々が「ふだん(毎日)の暮らし(生活)がしあわせ(笑顔)」であるために、互いに「ささえあう」ことの大切さを伝える中で、学校から①「ふくし共育が、児童・生徒が『助けて』と言えるようになるきっかけとなってほしい」②LGBTQ 当事者、精神疾患のある方など、「当事者の幅を広げたい」というご意見をいただき、新たなプログラムの開発を行いました。社協職員を中心とした「ふくし共育プロジェクト」のメンバーで開発の検討を重ね、当事者や大学生を交えてプログラム体験会を実施するなど、子ども達により伝わりやすいプログラム開発に取り組み、実施しています。また、幼児へのふくし共育としてヒーローショーを活用したプログラムも実施しました。</p> <p><u>推進施策(2) について</u></p> <p>・市・社協・市内福祉事業所との協働による、学生向けの福祉事業所紹介イベント「ウェルフェアワークス」については、令和4年度は計4回開催し、高齢、障がい、子ども分野や心理職、MSW 等多分野の職種にご協力いただきました。さらに、新たな取り組みとして、施設見学ツアーを企画し、福祉現場の実情について理解を深めてもらう機会の増加に努めました。</p> <p>・ウェルフェアワークスから市内福祉事業所に就職した方が2名いると聞いています。</p>		
R5年度の予定(主なもの)	<p><u>推進施策(1) について</u></p> <p>・多くの小・中学校で新プログラムを実施する中、引き続き当事者等の意見を伺いながら生徒にとって伝わりやすいプログラムとなるよう検討していきます。ふくし共育の授業を通して、これまで以上に積極的に地域活動やイベント等に参加する機会をいただくことで保護者や地域住民に対する「ふくし」の理解促進を図ります。</p> <p><u>推進施策(2) について</u></p> <p>・引き続き「ウェルフェアワークス」として学生向けの福祉事業所紹介イベントや施設見学ツアーの開催、福祉事業所でのインターン受入などに取り組みます。</p>			

基本目標 4		課題解決の仕組みづくり		
評価指標	項目	3年度	4年度見込	5年度見込
		ふくし課題プロジェクト実施件数	2件	2件
推進施策と主な取組	<p><u>推進施策（1）</u> 課題解決の仕組みづくり</p> <p>■ 主な取組 ■</p> <p>① ふくし課題プロジェクト</p>			
現状と課題（主なもの）	<p><u>推進施策（1）</u> について</p> <p>・令和4年度は、「（災害時）指定避難所・福祉スペースの確保調整」と「（重層的支援体制整備事業）参加支援事業の推進（参加の場の創出・拡充）」の2件を実施しました。</p>			
R5年度の予定（主なもの）	<p><u>推進施策（1）</u> について</p> <p>・取組案件の内容に応じてプロジェクトメンバーを選定し、検討会議を重ねて課題解決の仕組みづくりを進めます。</p>			

令和 4 年度ふくし井戸端会議

○有脇小学校区 令和 4 年 7 月 2 8 日 (木) 有脇ふれあいセンター
「介護保険・介護保険サービスについての勉強会」

◇亀崎地区の福祉事業所に講師を依頼

- ・瑞光の里 緑ヶ丘 (特別養護老人ホーム)
- ・昭和の里・天領 (デイサービス)
- ・宝来 (ヘルパーステーション)
- ・看護小規模多機能ホーム有脇 (看護小規模多機能ホーム)

◇介護保険について

- ・まずは市役所に介護認定を受ける申請→介護度によって使えるサービスが異なる。
- ・亀崎地区にある介護保険事業所の紹介→亀崎地区の事業所 MAP を配布。

◇どこに相談するの？→ふくし相談窓口を紹介

◇勉強会で話を聞いてみて・・・

- ・むずかしい！ ・事業所職員に相談しに行く！ ・入所の待ち人数が多くてびっくりした。
- ・介護認定を受けないとサービスが使えないことを知った。
- ・今回のような勉強会がまたあるとよい。



○乙川東小学校区 令和 4 年 1 1 月 5 日 (土) 市民交流センター ニコパル

◇南海トラフ地震がいつ発生してもおかしくない！ 備えましょう！

とされているのはなぜ？

- ・南海トラフ地震は、発生すると非常に激しい揺れが長く続くと予想されています。長い揺れが収まるまでに津波の第一波が到達する地域もあり、揺れが起こってから安全な場所へ避難する時間も余裕もひっ迫するため、備えが必要とされています。

◇クイズで防災！

- ・災害用伝言ダイヤルは何番？→171 (毎月 1 日に練習することができます)
- ・災害時に比較的繋がりやすい電話は？
→公衆電話 (事前にどこにあるか調べておくと良いです)

◇大池区にお住まいの方に伝えたいこと

- ・この地域は標高が高く、海からも距離があるため、災害の視点で見ると一見安全な地域と言えます。しかし、近くにあるため池が決壊したら…を考えたことはありますか？ 海だけではなく、池からの浸水もあり得ます。七本木池は知多半島 2 位の貯水量を保持しています。決壊してしまうと、大池区も水浸しに、いつどんな災害に遭うかはだれにも



わかりません。災害時には自助はもちろん、共助も大切です。「ふだんの暮らし」の中で近所さんや家族との「つながり」を作っておくのも、共助のひとつです。

◇感想

- ・家族とも話し合い災害に備えていきたいと思った。
- ・トイレの使い方や作り方も教えてほしい。感震ブレーカーは自分で取り付けられるのか。
- ・途中から話をきいたが最初から聞けばよかったと思った。
- ・備えといえば「備蓄」と思っていたけど、ふだんからの「つながり」も大切なんだなと気づいた。

○さくら小学校区 令和4年4月25(日) 雁宿ホール
福祉事業所や地域が抱える課題と若い世代の協力



◇事業所や地域の困りごと

- ・放課後等デイサービス（放デイ）では児童の人数が多く、スタッフの見守りの目が少ない。
- ・子ども食堂の需要は高いと思うが、人手不足の問題が必ず出てくることから、なかなか事業展開に踏み出せない。
- ・さくら小学校は国際色豊かになりつつある。“障がい”ゆえに話せない子どもも“言葉の壁”ゆえに話せない子どももいる。

◇地域のできること

- ・放デイでは地域の公園で遊んだり、送迎途中でも地域に出ることが基本。もっと地域に目を向けてみよう。
- ・事業所で地域の公園清掃ができればいいな。

◇若い世代に協力してほしいこと

- ・放デイの見守りボランティア
- ・調理好きな学生と一緒に子ども食堂ができたらいいな…。



○岩滑小学校区 令和4年4月25日(月) 雁宿ホール

福祉事業所や地域サロン、子ども食堂の顔の見える関係づくりと困りごとについて

◇福祉事業所の地域での困りごと

- ・地域の事業所同士でも、お互いの事業所のことがわからない。
- ・地域で活動しようとしても事業所としての最低限の規則を守ることが難しい。
- ・事業所について知ってほしいが、時間やリソースがない。

◇地域サロンの地域での困りごと

- ・広くたくさんの人に利用してほしいが、利用者が固定化されている。
- ・サロンで交流する場を設けたいが、運営側も時間等様々なことで苦勞し、なかなか実現できない。
- ・施設について知ってほしいが、どのように広報すればよいのか。

◇子ども食堂の地域での困りごと

- ・スタッフが気にかけている家庭ほど、その親に頼んでも申込みがない。
- ・1回あたり50食が限界。
- ・料理を確保しておく場や人手が不足している。
- ・補助金に頼るだけでは運用は難しい。

◇今後、地域でやってみたいこと

- ・地域の居場所（サロン）に今まで来たことがない人は待っていても来てくれない！発信が必要。
- ・「みんなで花を育てる」ことを通じて、地域の人々の生きがいづくりにつなげられないだろうか。
- ・子ども食堂の需要は高い。他の地区でも協力して実施してみよう。
- ・やなべふれあいセンターを使用して、普段交流のない人とも交流をしてみよう。

○半田小学校区 令和4年4月25日（月）雁宿ホール

地域ニーズ×福祉ニーズ = “半田小学校区のためにみんなでできること”



◇私が地域でできること・目指すこと（Key Words）

- ・地域を中心に ・働ける居場所づくり ・空き家の活用
- ・子どもを通してまちづくり 障がい・性別・人種関係なし
- ・子どもたちが地域の大人と安心して接することができるまち
- ・互いの強み・困難を知れる場づくり ・巻き込む力 ・地域と顔の見える関係づくり

◇「誰もが暮らしやすいまちづくり講座」を参考に地域でできること

- ・赤レンガ応援隊（@赤レンガ）
- ・神社でマルシェ（@住吉神社）
- ・みんなの南吉記念展（@新美南吉記念館）
- ・“神社でマルシェ”の前にみんなでまちをきれいにしよう！！
- ・今の資源を活用して地域のつながりを！

◇その他

- ・今まで地域にお世話になってきた。60歳を過ぎた今、地域にお返しをしたくて動いている。
- ・「私たちのために協力をお願いします」ではなく、「私たちは地域のためにこんなことができる」というスタンスが大切。
- ・何かやりたいことがあれば、区長にも是非相談していただきたい。

- ・中学校としても、地域と顔の見える関係づくりを大切にしている。手伝えることがあれば声をかけてほしい。

○雁宿小学校区 令和4年4月25日雁宿ホール

地域や福祉分野が抱える課題と地域でできること

◇地域の困りごと（地域ニーズ）

- ・地域ふれあい施設のボランティアスタッフ同士は、電話で連絡を取り合っている。休館の連絡など、時間と電話代がかかる。

⇒スマートフォンの基本的な使い方がわかるように教えてほしい…

◇福祉分野（学生）の困りごと（福祉ニーズ）

- ・福祉系の大学生が実習やボランティア、サークル活動、アルバイトや対面講義など、学生のうちに体験できる福祉を知る機会が減っている。

⇒福祉に関わる体験ができないだろうか…

◇かりやど憩の家で、学生が教えるスマホ教室をやってみよう！（事業）

- ・ボランティアスタッフの連絡がとても楽になる！
- ・自分の孫くらいの世代に教えてもらう方がやる気が出る！
- ・事業所ではないけれど、介護予防拠点施設を知ることができる！
- ・普段何気なく使っているスマホの使い方を教えることで、高齢者の役に立てる！



○花園小学校区① 令和4年4月18日（月）東地区憩いの家

◇地域の困りごと

- ・令和3年12月にふくし井戸端会議を開催した際に「地域振興券の使い方がわからない。」との声がありました。

◇課題

- ・地域振興券の利用期限が令和4年5月末までであるものの、未利用の方が数名いた。

→使い方がわからず、利用できていないようであった。

◇解決策

サロンで地域振興券を使った方の話を聞いてみよう。

- ・いつもは行かないお店に行ってみた。 ・近くの店で使った。 ・医者に行って使った。
- ・家族で食事に行った。 ・つまずきにくい靴を購入した。 ・障子の張替えをした。
- ・息子にビールを買ってあげた。 ・正月料理を少し豪華にした。
- ・杖を購入した。 ・犬のえさを購入した。 ・掃除道具を購入した。 など



◇結果

未使用者「そのような使い方、そのお店でも使えるんだ。」と新たな気づきが生まれた。

使用済者「今度その店に行ってみよう。」と新たな気づきが生まれた。

→住み慣れた地域における、より利用しやすい情報の共有ができた。

○花園小学校区② 令和4年6月6日(月) 東地区憩いの家

今年度ごみ処理施設が新しくなったため、ごみ処理・分別をテーマとして、半田市リサイクルセンター職員による説明会を開催。

◇分別やごみの出し方

蛍光管

- ・ごみステーションに出すのは不可。リサイクルセンターで回収。
- ・家電量販店で引き取りできることもある。・割れた場合は、燃やせないごみで出す。

スプレー缶

- ・中身をすべて使い切る。・破裂する危険性があるため、穴をあけない。
- ・透明・半透明の袋に入れ、「発火性危険ごみ分別シール」を貼り、燃やせないごみの日に出す。

弁当の容器(プラスチック製など)

- ・洗ってリサイクル。・汚れが取れない場合は、燃やせるごみ。

紙類

- ・紙類で汚れている場合は燃やせるごみ。

粗大ごみ

- ・縦・横・高さのいずれか1辺が60cm以上あるもの。
- ・ごみステーションに出すことはできない。

◇ごみステーションにごみを出しに行けなくなったら？

→ごみ出しに行けない理由によっては、ごみの戸別回収制度(家の外まで出すことが必要)を利用できるので、リサイクルセンターに相談してほしい。

○花園小学校区③ 令和5年1月10日(火) 青山児童センター花・はな

未就園児を育てるママさんにお話を聞きました。

◇青山児童センター花・はなを利用するきっかけは？

- ・「施設がきれいで広く、駐車場がたくさんあって良い」と聞いた。
- ・夫が子どもの頃に利用していた。・赤ちゃん訪問で保健師に聞いた。



- ・はんだっこネット、チラシを見た。・第2子が生まれ、保育園を退所したため。
- ・子どもの人見知りを少しでも良くするため。・自宅から近かった。
- ・散歩をしていて、たまたま見つけた。・・・など

◇花・はなに来るようになって変わったことは？

- ・子どもは楽しそうにしている。
- ・子どもは家にいると怒っているが、花・はなに来ると機嫌がいい。

◇その他に出かける場所は？

- ・公園 ・はんだっこ ・実家 ・市内の児童センターに日替わりで行っている。
- ・半田同胞園のぴよんぴよん村 ……など

◇あるといいなと思うことは？

- ・雨の日、暑い日、寒い日に遊べる施設がたくさんあるといい。
- ・小さい子が体を動かすことができる室内スペース。
- ・外の砂場は衛生的に利用したくないので、室内で遊べる砂場。
- ・飲食店やお店に無料で遊べるキッズスペース。 ……など

R4年10月7日(金) 中日新聞朝刊(知多版)

10/6(木) 開催 ウェルフェアワークス(於: 雁宿ホール視聴覚室)

仕事のやりがいや業務内容について語り合う福祉施設の職員と学生＝半田市の雁宿ホールで



福祉やりがい知って

大学生に福祉の仕事を紹介するイベント「ウェルフェアワークス 福祉との出逢い」が六日、半田市の雁宿ホールで開かれた。将来の福祉人材を育もうと、市内の事業所で働く職員が中心となって企画。「福祉のやりがいを知り、職業の選択肢の一つとしてほしい」と呼び掛けている。

(山岸弓華)

半田 大学生向けに仕事紹介イベント

「なぜこの仕事を選ぶのか」「困った人を助けたい思いで、この世界に飛び込んだ」。参加した学生二十人余りは四グループに分かれ、特別養護老人ホームや病院などで働く職員らに、業務内容ややりがいについて質問した。

和気あいあいとした雰囲気の中、学生たちは職員の言葉を熱心にメモを取った。参加した日本福祉大一年の石巻花菜さん(こはな)は「幅広い視点で福祉の仕事を知ることができた。まだ明確に就職したい職種があるわけではないが、勉強になった」と語った。

福祉業界の人材不足を懸念する市内の事業所職員有志が中心となり、イベントの実行委員会を立ち上げた。実行委代表で、社会福祉法人「椎の木福祉会」(同市椎ノ木町)職員の岡崎将司さん(さとし)は「生産人口の減少で、人材不足は今後ぶつかる壁になる。若者たちに、事業所自らアプローチしていくことが必要」

と話す。「きつい」「大変」といった業界のネガティブなイメージを払拭するのも、目的の一つだ。二十四日には、学生を対象に市内の福祉施設を巡るバスツアーも開催。コロナ禍でオンライン学習が主流になる中、現場を見ることで、仕事への理解をより深めてもらう考えだ。岡崎さんは「専門職や利用者の方と触れ合うのは大事。今後も福祉の仕事を学ぶ機会を設けていきたい」と話している。

ふくし課題プロジェクトについて

1. ふくし課題プロジェクトについて（基本目標 4・推進施策（1）・主な取組①）

社会情勢の変化等により生じる新たな課題や従来から課題と認識していながら未だ有効な対応策が確立できていないものについて、市民・行政・社協・関係機関等からメンバーを選定してプロジェクトチームを結成し、検討会議を重ねて課題解決の仕組みづくりを行うもの。

- ①プロジェクトは、福祉課題に係る関係者間の協議調整の様々なフレーム（枠組み）の一つ。
- ②地域福祉課が事務局となり、検討会議を開催して検討結果を地域福祉計画推進委員会へ報告する。
- ③プロジェクトでの検討は、基本的に課題解決の仕組みづくりまでとする。
- ④プロジェクト案件 1 件に係る検討期間は基本的に 1 か年度以内とする。

2. 令和 4 年度プロジェクト＜経過報告＞

（1）（災害時）指定避難所・福祉スペースの確保調整

【内容】学校体育館等の指定避難所における福祉スペース（高齢者、障がい者、乳幼児等のための区画）の確保及び必要物品の調達等について検討する。

【進捗】大規模災害が発生し、中長期的に避難所を開設することとなった場合に、速やかに福祉スペースを設置することができるよう福祉スペース設置ガイドラインを作成することについて協議。また、災害時の福祉用具調達のため、一般財団法人日本福祉用具供給協会との災害協定について協議を行った。

（2）（重層的支援体制整備事業）参加支援事業の推進【参加の場の創出・拡充】

【内容】重層的支援体制整備事業の一つである参加支援事業の充実に向け、社会的に孤立している方の社会参加の場・機会の創出・拡充について検討する。

【進捗】半田市内で行われた参加支援の事例を集め、それを可視化すること、また困難事例などから見える参加支援や参加の場の創出等について検討を行った。

次年度以降も関係機関等と参加支援の充実に向けた検討を継続し、参加支援事業化に向けた検討も行っていく。

3. 令和5年度プロジェクトの案件について（案）

令和5年度は、第2次半田市地域福祉計画の中間見直しを行うため、以下のとおりとする。

- (1) 第2次地域福祉計画の中間見直しについて
- (2) 重層的支援体制整備事業計画について

令和4年度 ふくし課題プロジェクト 名簿

テーマ： (災害時) 指定避難所・福祉スペースの確保調整

No.	所 属		氏 名
1	福祉事業者	社会福祉法人ダブルエッチジェー	立石 佳輝
2		社会福祉法人椎の木福祉会	森川 武彦
3	社協	半田市障がい者相談支援センター	徳山 勝
4		半田市包括支援センター	山本 篤史
5		〃	杉浦 友紀
6	半田市	総務部防災安全課	横井 廉
7		福祉部地域福祉課障がい者援護担当	瀧本 遼
8		福祉部高齢介護課介護保険担当	藤塚 博志
9		〃	大崎 千尋
10		子ども未来部子育て相談課	三浦 涼平
11		子ども未来部幼児保育課	村田 はる
12	事務局	福祉部地域福祉課地域福祉担当	内藤 誠
13		〃	黒野 隼

(庁内調整会議)

No.	所 属		氏 名
1	半田市	総務部防災安全課	横井 廉
2		福祉部地域福祉課障がい者援護担当	瀧本 遼
3		福祉部高齢介護課介護保険担当	藤塚 博志
4		〃	大崎 千尋
5		子ども未来部子育て相談課	三浦 涼平
6		子ども未来部幼児保育課	村田 はる
7	事務局	福祉部地域福祉課地域福祉担当	内藤 誠
8		〃	黒野 隼

令和4年度 ふくし課題プロジェクト会議 名簿

テーマ：（重層的支援体制整備事業）参加支援事業の推進（参加の場の創出・拡充）

区分	所属	氏名
庁外	半田市社会福祉協議会ボランティア地域ささえあいセンター	中根 靖幸
	半田市社会福祉協議会ボランティア地域ささえあいセンター	加藤 昭宏
庁内	福祉部地域福祉課担当障がい者援護担当	瀧本 遼
		片山 雄貴
	福祉部生活援護課くらし相談担当	古川 陽一
事務局	福祉部地域福祉課担当地域福祉担当	吉澤 伸博
	福祉部地域福祉課担当地域福祉担当	榊原 沙恵

第 2 次半田市地域福祉計画の中間見直しについて

1. 計画期間 R3～7 年度（5 年間）

2. 中間見直し R5 年度

3. 見直し目的

(1) 計画の進捗状況の把握と評価

【例】（評価指標）現状値の更新（R1⇒R4）と目標値の再設定（R7）

(2) 他計画との整合

【例】「健康はんだ 21 計画」と「自殺対策計画」の統合と両計画の期間延長（1 年）

4. 見直し方針

(1) 見直しにあたり、「市民アンケート」は実施しない。

⇒次回の「市民アンケート」は、第 3 次策定に向けて R6 実施予定

(2) 見直しに係る「パブリックコメント」は実施しない。

⇒半田市パブリックコメント要綱の手引において、「『計画の基本的な考え方に影響を及ぼさない部分的な改正』については、パブリックコメントを実施しないことができる」とされている。

(3) 時勢・情勢の変化等を計画本文等に反映させる。

【例】C S W の配置、コミュニティソーシャルワーカーふくまる会議（重層的支援体制整備事業に係る支援会議その他の会議の合同会議）の開催、（災害時）個別避難計画の策定など

(4) 重層的支援体制整備事業実施計画を地域福祉計画の中に組み込む。

⇒重層実施計画の内容は、国のガイドラインに沿ったものとする。

(5) その他

①統計データ（地福計画第 2 章「半田市の状況」の第 1 節）は可能な範囲で更新

②今後の話合いの中で出てくる各種アイデアの反映は、R5 年度「中間見直し」として行うか、R7 年度「第 3 次計画策定」として行うか都度仕分けする。

5. 見直しスケジュール

(R4 年度)

12月 地福計画コア会議で方針説明

2月 地福計画推進委員会で方針説明

(R5 年度)

5月 地福計画コア会議①

6月 地福計画推進会議①

9月 地福計画コア会議②

10月 地福計画推進会議②

12月 地福計画コア会議③

2月 地福計画推進会議③

3月 完成

意見集約

意見集約

最終案提示

この間も、必要に応じ、メール等
活用した意見集約を適宜行う。

6. R5 年度ふくし課題プロジェクト (案)

(1) 「地福計画の中間見直し」について

(2) 「重層計画」について

※できる限り R4 中に前倒しスタート